

平成24年度 学校心臓検診集計結果報告書

静岡県医師会学校保健対策委員会 学校心臓検診結果検討小委員会

委員長	上田	憲	(静岡市静岡医師会)
副委員長	長尾	正明	(静岡県医師会)
委員	龍神	美穂	(沼津医師会)
	渡邊	正規	(富士市医師会)
	向井	英之	(静岡市静岡医師会)
	大川	雅龍	(榛原医師会)
	井上	康夫	(浜松市医師会)
	深澤	ちえみ	(富士宮市立病院)
	田中	靖彦	(静岡県立こども病院)
	岩島	覚	(浜松医科大学医学部附属病院)

※この報告書は静岡県医師会ホームページでもご覧いただけます。 <http://www.shizuoka.med.or.jp/child/index.html>

平成24年度 学校心臓検診集計によせて

平成24年度の学校心臓検診の集計がまとまりましたのでご報告いたします。

いつもながら面倒な集計作業に快くご協力くださった学校長・養護教諭の諸先生、県および市町教育委員会、郡市医師会ならびに関係の諸先生方に深謝申し上げます。

また、精検・追跡調査表の記載に貴重な時間を割いてご協力いただいた精密検査担当医療機関の先生方にも厚く御礼申し上げます。加えて、再調査のお願いに対してご丁寧に返信をいただいた先生方にも重ねて御礼申し上げます。

検診結果に関する再調査につきましては、本年度も必ずしもスムーズに行われたとは言えない結果でした。担当医の交代などで学校心臓検診の意義が良くご理解いただけないこともあります。学校検診事業の実施主体は教育委員会にあり、静岡県医師会学校心臓検診結果検討小委員会（以下、本委員会）はその精度管理のためにお手伝いをしているに過ぎないことのご理解を得られない事が最大の原因であるように考えています。この点を静岡県教育委員会へ昨年来申し入れを行い、協議を重ねて来ていますが、文書の中で教育委員会の事業である事を明確にするには未だ至っていません。協議の結果、教育委員会と本委員会の関係を平成25年度中には明確にしたいと考えていますが、そうなれば今後の事業がより円滑に進む事と期待をしております。

静岡県では、心電図による学校心臓検診は昭和48年から実施され始め、静岡県医師会による県全体の集計は昭和63年から教育委員会と本委員会が精密検診医の協力の下で行ってまいりました。集計を始めた初期には、二次検診の抽出基準、内容や診断、それに基づく学校生活管理基準などの精度管理が県内で統一にはほど遠い状態でした。しかし、昭和62年に日本学校保健会から発行された『心疾患児童管理指導のしおり（学校・校医用）』、その後、平成14年度に改定された『心疾患児 新・学校生活管理指導のしおり』を活用し、検診の精度管理の標準化を目指してきた結果、一昨年度の第42回全国学校保健・学校医大会で発表したようにかなりの成果がみられております。先生方には毎年の検診でどのような疾患（所見）が発見され、どのように管理されたかを集計してご報告してまいりました。

以下に、本年度の集計結果に関するコメントを述べさせていただきます。

なお、小学校4年生については、実施自治体が少し増えたものの79.8%と未だ全県下で実施されていないため、参考データとしてコメントの対象にはなっていません。

一次検診の総受診率は在籍者数87,464人に対して87,272人（99.8%）で例年と同率で良好でした。一次検診の未受診者総数は昨年度の161人から少し増加して192人ですが、主治医受診者が7人いるのでまったく検診を受けていないのは185人で0.2%となります。不登校などの長期欠席者がほとんどを占めるのではと考えますが、現時点では確認も対応も出来ていません。

一次検診者のうち要精検者は受診者の2.8%と昨年度とほぼ同じでした。学年別では、小1が2.8%、中1が3.0%、高1は2.5%でした。要精検者のうち実際に精密検査を受けているのは92.3%と昨年度の91.3%より1%増加し2年連続で90%を超えましたが、未受診者は188人に達します。うち86人は既に医療機関で経過観察が行われていて、学校生活管理指導表が集計報告書の提出期間に間に合わずに未受診扱いになったのかも知れません。ただし、本検診は学校入学年度に行われているので、新規入学の学校における運動管理の指標となる学校生活管理指導表の提出は不可欠と思われます。残りの102人は精密検査を受けていないと考えられ、安全に学校生活を送るため、特に運動に関する管理が学校でどうなっているのが危惧されます。学校管理下の事故を避けるためにも、管理漏れは極力なくしていく努力が必要と考えられます。今後、静岡県教育委員会との意見交換会の場でも注意を促したいと思えます。

精検受診者のうち、要管理者総数は902人と昨年度の862人から少し増加して、率の上でも一次検診受診者数の1.03%と昨年の0.96%より少し高率となりました。

I. 「器質異常」の新規発見者総数は51人で昨年度の40人から大きく増加しています。主な疾患として、本年度は4人の心房中隔欠損症（ASD）が見つかっています。1人の小1に加えて高1が3人発見されていますが、そのうち1人は指導区分がDでした。ただし、再調査の結果、その後手術を受けE可に変更となっていますので、心不全や肺高血圧が進んでいたための指導区分Dではなかったようです。ASDに関しては、年長になると心音そのものが聞こえにくくなるので、喧噪の中で実施される内科検診の時に心雑音を検出する事は困難になります。

不完全右脚ブロック所見がある場合は、精密検診でASDのチェックが大切ですが、心雑音がはっきりしないなど聴診所見が非典型的な場合もあるので、一度は心エコー検査で確認しておくことが望まれます。その後は検診調査票の記載を参考にして心エコー検査は不要になります。その他にも小1で心室中隔欠損症が3人、僧帽弁逸脱症が小1で1人、中1で4人、高1で1人診断されています。また、心筋症は肥大型が小1、中1にそれぞれ1人ずつ、拡張型が高1で2人発見され、既往の2人を含めて合計6人（うち肥大型が3人）でした。突然死につながる可能性があり、常に注意すべき疾患と考えられます。

Ⅱ.「心電図・心音図異常」の新規管理者は427人でした。多いものは例年どおり心室性期外収縮です。単源性期外収縮での要管理者211人（小1：64人、中1：104人、高1：43人）はまず問題のないものですが、多源性連発等12人、心室性頻拍症2人に関しては注意が必要です。

1度、2度の房室ブロックによる要管理者が15人（小1：2、中1：7、高1：6）と昨年度と同数でした。1度の房室ブロックは運動負荷でPRが正常化すれば管理不要に、2度の房室ブロックもWenckebach型は運動負荷により正常伝導になれば管理不要となるものです。単源性上室性期外収縮での要管理者25人（小1：3、中1：15、高1：7）も本来は管理不要と考えられますが、昨年度の19人からやや増加でした。右脚ブロックも25人（小1：7、中1：10、高1：8）が管理されていますが、心エコー検査で心疾患が否定されれば、ほとんどの例で管理不要と思われます。これら以外では、PQ短縮（WPW症候群など）が小1で17人、中1で20人、高1で14人に認められました。QT延長は小1で2人、中1で24人、高1で6人に認めましたが、コンピュータ自動分析結果ではなくQTcの実測が大切だと思います。中学生が突出して多いのですが、検診医の診断基準の相違が原因ではと考えられます。

Ⅲ.「既往異常」では、新規に指摘された例はありませんでしたが、従来から管理されている川崎病は小1で95人（うち2人は術後）、中1で9人、高1で1人の合計105人でした。

医療機関での精密検診では、器質異常の場合は心エコー検査、不整脈の場合は学校生活時の危険回避のため運動負荷テストを用いての判断が是非必要です。先天性心疾患や心筋症、危険な不整脈が見逃されることはなんとでも避けなければなりません、不必要な過剰管理もあってはならないと考えられます。

学校生活の場で運動が禁止されるE禁以上の管理は児童生徒にとって大変なショックであり、E可でクラブ活動が許可されていても、管理が必要と指示されることだけで本人およびご家族には大きなストレスとなります。

逆に保護者から「念のため来年も診てください。」とか、「突然死などの家族歴があり心配なので運動を制限したい。」と依頼を受けることもあるかと思われます。このような場合は、精密検診の結果は基準にしたがって学校へ報告した上で、一般の保険診療として受診機関へ再診させていただければ良いのではと思われます。

また、精密検診を指示された中学生、高校生では多くが内科医を受診するかと思われませんが、内科や循環器科は小児科に比べて病院勤務医の交代や新規開業が頻繁で、精密検診を行うに当たっても学校心臓検診の仕組みを十分にご存知でない先生が多いように思われます。学校心臓検診の趣旨を検診に関わる医師全員にご理解いただくことはなかなか困難ですが、『しおり』の管理基準の理解がさらに深まり、学校心臓検診の質がより向上していくことを願ってやみません。

なお、本年度も『しおり』の管理基準と合致しないケースについては、本委員会で検討し再調査をさせていただきました。再調査対象件数は111件で昨年度の91件からやや増加しました。そのうち、変更なし36件、未回答13件、その他6件、指導区分の変更は56件でした。指導区分を変更した56件のうちD→E禁が1件（単源性心室性期外収縮、2段脈、3段脈）、D→E可が3件（Ⅱ度房室ブロック+軽度僧帽弁閉鎖不全、ST・Tの異常+心音図異常、完全右脚ブロック+心房中隔欠損症）、E可→管理不要が49件と大多数で管理が軽減されましたが、逆に管理不要→E可が3件（新規の単源性心室性期外収縮2件、新規多源性心室性期外収縮、僧帽弁逸脱症1件）ありました。

本年度の再調査件数はやや増加をし、再調査例でも変更なしは36件と昨年度の24件よりかなり増加をしました。変更なしの例については、診断名に表しきれない心電図所見や主訴などからやむを得ない場合もあり、年度によって多少のばらつきが出る事はやむを得ないと考えています。

なお、再調査の際には『しおり』を同封していますので、学校心臓検診の趣旨と管理基準をご理解いただき、その上でご返答していただきますようお願いいたします。なお、指導区分の変更をお認めいただいた患者さんにつきましては、指導区分の変更が速やかに行われますよう、訂正をしていただいた学校生活管理指導表をご家族を通じて学校へ再提出していただくことを併せてお願いいたします。

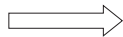
なお、指導区分変更の内容については「別表」を参照してください。

静岡県医師会学校保健対策委員会
学校心臓検診結果検討小委員会 委員長 上田 憲

(別表)

平成24年度学校心臓検診「再調査」による指導区分の変更について

○再調査対象件数 111件



① 指導区分の変更あり	56
② 指導区分の変更なし	36
③ 未回答 (担当医異動等により返送されたものを含む)	13
④ その他	6
計	111

○指導区分の変更あり (56件) の内訳

1. D→E禁 1件

所見名	件数
単源性心室性期外収縮 (二～三段脈)	1

2. D→E可 3件

所見名	件数
Ⅱ度房室ブロック、軽度僧帽弁閉鎖不全	1
ST・Tの異常、心音図異常	1
完全右脚ブロック、心房中隔欠損症	1

3. E可→管理不要 49件

所見名	件数
単源性上室性期外収縮	8
不完全右脚ブロック	6
川崎病	5
房室解離	4
I度房室ブロック	3
完全右脚ブロック	3
上室性期外収縮	2
所見なし	2
Ⅱ度房室ブロック	2
不完全右脚ブロック、単源性上室性期外収縮	2
ST・Tの異常	1
T波異常	1

所見名	件数
異常Q波	1
異所性心房調律	1
右軸偏位、右室肥大	1
機能的心雑音	1
左室肥大	1
単源性上室性期外収縮、洞性頻脈	1
不完全右脚ブロック、家族歴	1
不完全右脚ブロック、洞性不整脈	1
房室解離、間欠性完全右脚ブロック	1
心肥大、洞性不整脈、家族歴	1
計	49

4. 管理不要→E可 3件

所見名	件数
初診・単源性心室性期外収縮	2
初診・多源性心室性期外収縮、僧帽弁逸脱症	1

※以下の集計結果は、再調査により当初の指導区分が変更されたこれらの結果を踏まえたものとなります。

平成24年度 学校心臓検診集計結果の概略

区分	在籍者数	一次検診受診者数	内、要精検者数	要精検者数の内訳							一次検診未受診者数の内訳		
				精密検査受診者数の内訳			精密検査未受診者数の内訳				一次検診未受診者総数	内訳	
				精密検査受診者総数	指導区分の内訳			精密検査未受診者総数	内訳			①主治医受診	②その他
小学校1年生	31,723	31,684	883	809	352	453	4	74	32	42	39	5	34
中学校1年生	33,384	33,263	997	923	390	529	4	74	33	41	121	2	119
高等学校1年生	22,357	22,325	561	521	160	360	1	40	21	19	32	0	32
計	87,464	87,272	2,441	2,253	902	1,342	9	188	86	102	192	7	185

小学校4年生	27,665	27,635	720	662	299	357	6	58	29	29	30	2	28
--------	--------	--------	-----	-----	-----	-----	---	----	----	----	----	---	----

注) 小学校4年生については、検診実施校に対して報告を求めたものであり、必ずしも県下全ての小学生の検診結果を示すものではありませんのでご注意ください。なお、本年度は411校より報告をいただきました (実施率79.8%)

小学校1年生

注) 指導区分の「A」「B」に該当する児童の報告はありませんでした。

項目	指導区分		B			C			D			E禁			E可			小計			合計		
	既往	新規	既往	新規	既往	新規	既往	新規	既往	新規	既往	新規	既往	新規	既往	新規	既往	新規					
	術後	未	術後	未	術後	未	術後	未	術後	未	術後	未	術後	未	術後	未	術後	未					
器 質 異 常	心房中隔欠損症 (ASD)												2			20	8	1	22	8	1	31	
	心室中隔欠損症 (VSD)												2			28	26	3	30	26	3	59	
	動脈管開存症 (PDA)															6	5		6	5		11	
	ファロー四徴症 (TF)															7	1		7	1		8	
	肺動脈弁狭窄症 (PS)															3	8		3	8		11	
	その他の先天性心疾患							4					10			26	12	9	40	12	9	61	
	僧帽弁逸脱症 (MVP)															1		1	1		1	2	
	心筋症-①肥大型 (HCM)												1									1	1
	心筋症-②拡張型 (DCM)																						
	川崎病後遺症																5			5			5
	その他の器質異常							1		2	1		1			6	6	2	10	7	2	19	
	器質異常 小計①							1		6	1	1	15			97	71	16	119	72	17	208	
心 電 図 ・ 心 音 図 異 常	右軸偏位																						
	左軸偏位																	2			2	2	
	P波の異常																	1			1	1	
	右心室肥大 (RVH)							1				2							3			3	
	左心室肥大 (LVH)																	1			1	1	
	洞房ブロック																1			1		1	
	I° 房室ブロック																	1			1	1	
	II° 房室ブロック															1		1	1		1	2	
	III° 房室ブロック																						
	房室解離																		1			1	1
	右脚ブロック															6	3	7	6	3	7	16	
	左脚ブロック (LBBB)																						
	PQ短縮 (WPW等)																		17			17	17
	QT延長																		2			2	2
	異常Q波																						
	ST・Tの異常																						
	上室性期外収縮 (①単源性)																1	3	3	1	3	3	7
	上室性期外収縮 (②多源性・連発等)																	2	2		2	2	4
	心室性期外収縮 (①単源性)																1	11	64	1	11	64	76
	心室性期外収縮 (②多源性・連発等)															1						1	1
上室性頻拍症 (SVT)																2	1	2	2	1	2	5	
心室性頻拍症 (VT)																							
その他の心電図異常																	2	1		2	1	3	
心音図異常																							
心電図・心音図異常 小計②								1				2		1	11	23	105	14	23	106	143		
既 往 異 常	川崎病 (MCLS)															2	93		2	93		95	
	検診等で異常追跡中																						
	心疾患で経過観察中																						
	その他																						
既往異常 小計③															2	93		2	93		95		
家 族 歴																1			1			1	
総 計 A (①+②+③)							1		7	1	1	17		1	110	188	121	135	189	123	447		
重複所見調整 B									1			5			24	15	13	30	15	13	58		
要管理者実人数 (A-B)								1	6	1	1	12		1	86	173	108	105	174	110	389		
指導区分別合計								1				8					13				367	389	

中学校1年生

注) 指導区分の「A」に該当する生徒の報告はありませんでした。

項目	B		C			D			E禁			E可			小計			合計
	既往	新規	既往	新規	既往	新規	既往	新規	既往	新規	既往	新規	既往	新規	既往	新規		
	術後	未	術後	未	術後	未	術後	未	術後	未	術後	未	術後	未	術後	未		
心房中隔欠損症 (ASD)									1			17	3		18	3	21	
心室中隔欠損症 (VSD)							1		1			33	19		34	20	54	
動脈管開存症 (PDA)												3			3		3	
ファロー四徴症 (TF)	1											3			4		4	
肺動脈弁狭窄症 (PS)												4	7		4	7	11	
その他の先天性心疾患						2	3		14	3	1	15	14	10	31	20	62	
僧帽弁逸脱症 (MVP)										1			6	4		7	4	11
心筋症-①肥大型 (HCM)								1									1	1
心筋症-②拡張型 (DCM)																		
川崎病後遺症												1			1		1	
その他の器質異常					1				2			5	8	4	7	8	5	20
器質異常 小計①	1				1	2	4	1	18	4	1	81	57	18	102	65	21	188
右軸偏位					1												1	1
左軸偏位														4			4	4
P波の異常																		
右心室肥大 (RVH)					1							1			1		1	2
左心室肥大 (LVH)																		
洞房ブロック																		
I° 房室ブロック													1	2		1	2	3
II° 房室ブロック													3	5		3	5	8
III° 房室ブロック												1			1		1	1
房室解離														2			2	2
右脚ブロック												7	7	10	7	7	10	24
左脚ブロック (LBBB)														1			1	1
PQ短縮 (WPW等)											1	4	23	19	4	23	20	47
QT延長										1			4	24		5	24	29
異常Q波																		
ST・Tの異常														3			3	3
上室性期外収縮 (①単源性)													4	15		4	15	19
上室性期外収縮 (②多源性・連発等)													1	7		1	7	8
心室性期外収縮 (①単源性)													48	104		48	104	152
心室性期外収縮 (②多源性・連発等)													1	6		1	6	7
上室性頻拍症 (SVT)												2	1	3	2	1	3	6
心室性頻拍症 (VT)														2			2	2
その他の心電図異常														3			3	3
心音図異常								1						1			2	2
心電図・心音図異常 小計②					2			1	1	1	15	93	211	15	94	215	324	
川崎病 (MCLS)													9			9		9
検診等で異常追跡中																		
心疾患で経過観察中																		
その他																		
既往異常 小計③													9			9		9
家族歴													1	1		1	1	2
総計 A (①+②+③)	1				3	2	4	2	18	5	2	96	160	230	117	169	237	523
重複所見調整 B					2		1	1	2	1	1	19	24	47	21	26	51	98
要管理者実人数 (A-B)	1				1	2	3	1	16	4	1	77	136	183	96	143	186	425
指導区分別合計	1				1			6			21			396			425	

高等学校1年生

注) 指導区分の「A」「B」に該当する生徒の報告はありませんでした。

項目	B		C		D		E禁			E可			小計			合計	
	既往	新規	既往	新規	既往	新規	既往	新規	既往	新規	既往	新規	既往	新規			
	術後	未	術後	未	術後	未	術後	未	術後	未	術後	未	術後	未			
器 質 異 常	心房中隔欠損症 (ASD)					1				3	1	2	3	1	3	7	
	心室中隔欠損症 (VSD)									10	12		10	12		22	
	動脈管開存症 (PDA)																
	ファロー四徴症 (TF)									2			2			2	
	肺動脈弁狭窄症 (PS)									1	2		1	2		3	
	その他の先天性心疾患			1					3		8	3	3	12	3	3	18
	僧帽弁逸脱症 (MVP)											5	1		5	1	6
	心筋症-①肥大型 (HCM)						1								1		1
	心筋症-②拡張型 (DCM)						1						2		1	2	3
	川崎病後遺症																
	その他の器質異常						1	1			1	7	3	1	8	4	13
	器質異常 小計①			1			3	2	3		25	30	11	29	33	13	75
心 電 図 ・ 心 音 図 異 常	右軸偏位						1						1			2	2
	左軸偏位																
	P波の異常						1									1	1
	右心室肥大 (RVH)						1									1	1
	左心室肥大 (LVH)																
	洞房ブロック											1				1	1
	I° 房室ブロック										4	1		4	1	5	
	II° 房室ブロック										2	5		2	5	7	
	III° 房室ブロック								1		2	1		3	1	4	
	房室解離										1	1		1	1	2	
	右脚ブロック							1			2	1	7	2	1	8	11
	左脚ブロック (LBBB)																
	PQ短縮 (WPW等)										2	6	14	2	6	14	22
	QT延長				1							5	6		6	6	12
	異常Q波						1								1		1
	ST・Tの異常							1					1			2	2
	上室性期外収縮 (①単源性)											4	7		4	7	11
	上室性期外収縮 (②多源性・連発等)											1	2		1	2	3
	心室性期外収縮 (①単源性)							1				7	42		7	43	50
	心室性期外収縮 (②多源性・連発等)						1	1				1	4		2	5	7
上室性頻拍症 (SVT)												1			1	1	
心室性頻拍症 (VT)																	
その他の心電図異常										1	4	4	1	4	4	9	
心音図異常												1			1	1	
心電図・心音図異常 小計②				1		2	7		1	5	38	99	5	42	106	153	
既 往 異 常	川崎病 (MCLS) ※								1						1	1	
	検診等で異常追跡中																
	心疾患で経過観察中																
	その他																
既往異常 小計③									1					1	1		
家 族 歴											1	2		1	2	3	
総 計 A (①+②+③)			1	1		5	9	3	2	30	69	112	34	77	121	232	
重複所見調整 B						1	5			6	18	21	6	19	26	51	
要管理者実人数 (A-B)			1	1		4	4	3	2	24	51	91	28	58	95	181	
指導区分別合計				2		8			5		166			181			

参 考 小 学 校 4 年 生

小学校4年生については、検診実施校に対して報告を求めたものであり、必ずしも県下全ての小学生の検診結果を示すものではありませんのでご注意ください。なお、本年度は411校より報告をいただきました（実施率79.8%）

注）指導区分の「A」「B」「C」に該当する児童の報告はありませんでした。

項目	B		C			D			E禁			E可			小 計			合計	
	既往	新規	既往	未	新規	既往	未	新規	既往	未	新規	既往	未	新規	既往	未	新規		
	術後	未	術後	未	術後	未	術後	未	術後	未	術後	未	術後	未	術後	未	術後		
器 質 異 常	心房中隔欠損症（ASD）								2			17	1	3	19	1	3	23	
	心室中隔欠損症（VSD）								2			26	22	1	28	22	1	51	
	動脈管開存症（PDA）											1			1			1	
	ファロー四徴症（TF）								1			6			7			7	
	肺動脈弁狭窄症（PS）								1			2	11	1	3	11	1	15	
	その他の先天性心疾患						3	1		11	1		18	13	8	32	15	8	55
	僧帽弁逸脱症（MVP）							1			1		1	3	1	1	5	1	7
	心筋症-①肥大型（HCM）												1	1		1	1	2	
	心筋症-②拡張型（DCM）												1			1		1	
	川崎病後遺症							1					4			5		5	
	その他の器質異常								1		2		2	9	2	4	10	2	16
	器質異常 小計①						3	4		19	2		73	65	17	95	71	17	183
心 電 図 ・ 心 音 図 異 常	右軸偏位																		
	左軸偏位												1			1		1	
	P波の異常																		
	右心室肥大（RVH）								1			1			2			2	
	左心室肥大（LVH）																		
	洞房ブロック													1			1	1	
	I°房室ブロック																		
	II°房室ブロック													3			3	3	
	III°房室ブロック									1						1		1	
	房室解離																		
	右脚ブロック									1		6	2	6	7	2	6	15	
	左脚ブロック（LBBB）																		
	PQ短縮（WPW等）											3	17	16	3	17	16	36	
	QT延長							1						10		1	10	11	
	異常Q波							1								1		1	
	ST・Tの異常																		
	上室性期外収縮（①単源性）												4	7		4	7	11	
	上室性期外収縮（②多源性・連発等）													2			2	2	
	心室性期外収縮（①単源性）												32	58		32	58	90	
	心室性期外収縮（②多源性・連発等）																		
上室性頻拍症（SVT）											2	1		2	1		3		
心室性頻拍症（VT）											1			1			1		
その他の心電図異常									2			1		2	1		3		
心音図異常									1					1			1		
心電図・心音図異常 小計②						2			5	1		13	58	103	18	61	103	182	
既 往 異 常	川崎病（MCLS）												25			25		25	
	検診等で異常追跡中																		
	心疾患で経過観察中																		
	その他																		
既往異常 小計③												25			25		25		
家 族 歴																			
総 計 A（①+②+③）						3	6		24	3		86	148	120	113	157	120	390	
重複所見調整 B							1		9	1		16	15	18	25	17	18	60	
要管理者実人数（A-B）						3	5		15	2		70	133	102	88	140	102	330	
指導区分別合計						8			17			305			330				